

公開質問状回答 小田ゆきのぶ

1、あなたの政策について

すべての市民の皆さまにとって、福津市の暮らしや活動において、安心感や納得感、やりがい、家族の幸せ、楽しさ、希望、利便性、所得や資産価値の向上など「価値」の感じ方は様々だと思います。世代や地域、職種、家族構成等の違いを踏まえ、それぞれが感じる「福津市の価値」を総合的に高めていくまちづくりを目指します。以下に政策の6つの柱を示します。

① 子どもたち全員をしっかりと育てる！ 子どもたちの教育環境の格差解消を目指して、必要な小中学校の新設や更新を、計画性を持って進めます。また、子どもたちのスポーツへの取り組みや課外活動を応援します。

② 高齢者が安心して暮らせる生活支援を！ 今後、市内に後期高齢者が増加していきます。支援関係者の確保や連携を推進します。普段の移動や身近な生活拠点整備、災害時における支援等、高齢者が安心できる環境を整えます。

③ 災害に強く暮らしやすい基盤を整備！ 豪雨による内水氾濫の対策を進めるとともに、渋滞対策や公園整備、老朽化した都市基盤の再生など、安心安全な福津市を目指します。

④ 魅力ある福津市の生産環境を磨く！ 農業・水産業における生産基盤の維持とともに、環境の変化に応じた多様な支援策の展開を図ります。就業したくなる経営環境を目指します。

⑤ 松林や山林、海岸等の環境を守る！ 福津市は緑や海に囲まれた素晴らしい自然環境をもつまちです。荒廃しないようしっかり守っていきます。

⑥ 市の経済循環を向上させる！ 地域に根付いた商工業や観光業の事業環境を守るとともに、福津市に馴染む企業誘致を進めます。

上記の6つの施策の柱とともに「福津市の価値」を高めるためにチャレンジしたいことは ① 大学など高等教育機関の誘致 → 取組「識者と連携し、トップセールスに取組みます。」 ② JR 福間駅から津屋崎千軒までの鉄道の開業 → 取組「市民・関係者・市職員等で、研究会を立ち上げます。」

2、小中学校の大規模校、過大規模校への対策についてどのようにお考えでしょうか

福津市は、福岡都市圏の中での様々なデータから「住宅都市」としての性格が際立っており、それが福津市の特長であり都市としての役割であると思います。近年多くのニューファミリー層が転入され、子どもたちの数が急激に増加しました。少子化時代にあって、多くの子どもたちを預かっている福津市は、その役割を果たすべきだと思います。

こどもたちの教育環境の確保は喫緊の課題だと考えます。福間中学校や福間南小学校の過大規模校の問題や、近い将来校舎の老朽化対策として建て替えが必要となる学校のこととも念頭におかなければなりません。宮司地区の新設小学校建設（現在造成中）は、近隣住民の反対や大雨時の子どもたちの安全性への危惧、事業費の増大等、このまま建設すると将来に亘って大きな禍根を残す恐れがあるものと考えます。また、前提となっている校区再編については多くのハードルがあるものと思われ、可能であるか分からない状況と考えます。さらには、先の12月議会の一般質問等で明らかになったように、市は令和元年度～令和2年度に、基金約74億円（前年度末基金残高約102億円）を充て、22件の国債等の債券（30年満期21件、40年満期1件）を取得していたことが分かり、その後の債券価格の下落により、令和6年9月30日時点で、簿価総額約73億円に対し、時価が約50億円となっており、約23億円の含み損が発生していることが明らかになりました。議会一般質問では「①基金総額に対する債券取得の割合の大きさ ②30年満期と長期過ぎること ③債券取得後の価格の監視状況と解約タイミングを逸したこと ④議会や市民への報告がないことの隠蔽性」などが問題視されました。債券の現金化が困難なことや、現金化した場合大きく目減りするため、今後の行政サービスや学校建設、校舎の建て替え等に大きな影響が生じることが想定される事態となっています。以上のことから、今一度、市全体の子どもたちの教育環境の確保と、将来に向けての小中学校のあり方を、現在長きに亘って不在である教育長が着任した上で、市のまちづくりの方針と整合性を持って検討し直すべきと考えます。ただし、このことについては「速やかに」かつ「市民の皆さまとの情報共有を欠かさず」を徹底する必要があると考えます。

3、 教育長人事について

教育長は「教育委員会権限に属する全ての事務をつかさどり、所属職員を指揮監督し、教育委員会を代表する」とされており、不在であること自体非常に大きな問題だと考えます。その状態が長期に亘っており、またその状況の中で、問題を抱える宮司地区新設小学校建設が進んでいたり、校区再編計画策定が進んでいる現状は異常なことだと思います。

4、 分別ゴミの収集方法について

福津市における高齢層人口の中心はいわゆる「団塊の世代」ですが、いよいよこの層が後期高齢者（75歳以上）に移行してきます。分別ゴミの問題以外にも、買物や通院等の移動の問題や単身高齢者の対応、災害時の安全確保等、高齢者が安心して不安なく暮らせるための課題は山積みだと思います。市が担う行政サービスと地域コミュニティ活動の分担・連携を改めて考え直す時期に来ていると考えます。

5、 給食費無償化・オーガニック給食について

福津市の小中学校における給食費無償化の費用を試算すると概ね年間4億5千万円程度となります。給食費無償化を実現することは望ましいこととは思いますが、「質問2.」でお答えした市内の子どもたちの教育環境の格差解消を念頭に、学校建設に関することとの優先性も考えなければならないと思います。教育委員会の考えを尊重しながらも一般財源の使途の総合的な判断が重要となるものと考えます。また、一方で私は給食費無償化や福祉施策などが自治体によって差があることは問題であると考えています。一定の地域性は認めながらも、給食費無償化については、国が均一的に負担すべきとの思いがあります。オーガニック給食については、地産地消や食育、自校式等との関連性が大きいものと考えます。私自身は基本的にはこれらの方向性を重要視しています。